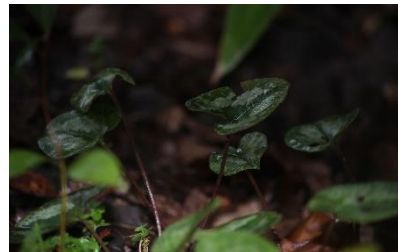


薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2020年
1月24日
第77号



ユズリハ (ユズリハ科)

おめでたい木としてお正月の輪飾りに使われますね。第一圃場南側の自然区で、赤みを帯びた葉柄の葉が目にとまります。中国南部、台湾原産といわれ、福島県以西の本州、四国九州、沖縄などに分布し、公園や社寺などに植えられています。5月ころ若葉が伸びて、花が咲いた後、黄色化した前年の葉が落ちるので、譲葉（ゆずりは）の名があります。種子と葉を「交譲木（コウジュボク）」という名の生薬とし、民間での外用薬として、煎液を外用薬としておできなどの皮膚腫瘍や化膿に対して、またイヌ、ネコ他、家畜に対する駆虫薬として使用されていました。葉、種子だけでなく、果実にも毒性の強いアルカロイドを含むため、内服は出来ません。

カンアオイ (ウマノスズクサ科)

薬草園内、第一圃場の横、黒い寒冷紗の中で真ん中に穴の開いた柿のへたのようなユニークな「花」が現れる気配がします！実際は花のように見えるがく片ですが。冬でも葉が枯れないことから「寒葵」の名が付けられ、江戸時代には葉に出る斑文を鑑賞するため盛んに栽培されました。ハート形の葉を徳川家の家紋と思われる人がみえますが、徳川家の家紋はフタバアオイ、同じカンアオイ属ですが、種が違います。ただ、カンアオイ属の分類はかなり複雑で、まだ議論の真っ最中です。日本でカンアオイ属植物を原料にする生薬に、ウスバサイシンの根および根茎を使う細辛があります。カンアオイの根および根茎を土細辛（ドサイシン）と呼ぶことがあります。細辛の劣等品という意味です。根にはオイゲノール等の精油成分を含み、微かな芳香を感じます。

今、こんな草木が楽しめます！！